

アカデミア メランコリア(第8回)(若手のコラム)

東海大学大学院海洋学研究科海洋科学専攻 修士2年 加藤 彩愛

はじめまして。東海大学大学院海洋学研究科修士2年の加藤彩愛です。前回のコラムを担当された東大の林さんよりご指名いただき、今回のコラムを担当させて頂きました。

「アカデミア メランコリア」、憂鬱なる学問。現在の日本の学問の場としての大学への進学率は50%ほどであり、東京などの大都市に限定すると60%を超えることもあると聞く。一方で、都市部でない地域では40%を下回ることもあるという。この、都市部と、それ以外の地域間における格差の背景には、主に金銭的要因があるといわれている。しかし、たとえ進学率の高い都市部に暮らしていたとしても、家庭環境などによっては大学進学に伴う金銭的な問題が大きな壁となって立ちのぼることもある。

大学進学に胸を高鳴らせる若者に、入学金や学費の支払い、一人暮らしのための生活費の工面、といった金銭的な問題が色濃く影を落とすとき、「学びたいのに学べない、行きたいのに行けない。お金がないから。」という現実に泣く泣く進学を諦める人が生まれる。

…かくいう私も家庭環境が複雑で、大学進学費や修学費の工面には大変苦労した。幸いなことに、生まれ育った東京には、高校生でも高い時給で雇ってくれるアルバイト先がたくさんあり、ある程度のお金は自分で用意することが可能だった。また、「教育こそが最も価値あることだ」といって、わたしを大学へやろうと、細かくて難儀な種々の給付金や奨学金の申請に母が奔走してくれた事は、何よりも大きなことだったといえる。当時の私にとって、お金があるかないか、とは、飯を食えるか食えないかと同等であり、そのお金を学費へ充てるのだから、学ぶことは命がけのことなんだと、それでもお前は学ぶのかと、自分に問うた時期もあった。現在は、乗船アルバイトを紹介して頂いたり、奨学金をもらったりしながら、普通に学生生活を送ることが出来ている。私は周囲の人々の助けを借りて、今ここにこうして学んでいられることに、感謝すると共に、幸運だったと思わずにはられない。

とにもかくにも、修学費は高い。そのため「大学へ行って学びたいのに学べない」若者が増える。しかしこういう人がいるという事は、ニュース、特集番組、新聞などでたまに目にするだけで、案外大して、大きな問題として認識されていないように感じる。なぜなら、こういう問題を扱っている人たちが、「大学へ行って学べた人たち」だからなのではないか。わたしも当時の思いを忘れそうになる。もちろん、そうでない人もいるということは承知しているけれど、「大学へ行って学びたいのに学べない」若者を放っておいたら、この先日本は、やせ細っていくばかりになってしまうんじゃないかと度々思う。学びたいという意欲こそが、世の中を動かす原動力になると思うから。

以上のような現実がある中で、若手の育成を掲げている海洋学会が、こうして、若手の声が多くの人目に触れる場を設けているという事は、とても重要なことだと考える。責任は夢から始まるという言葉があるように、困難な状況に気が付き、目を向け、変えてゆこうと思うためには、豊かな想像力が不可欠だが、自分が体験したこともない状況を想像するのはなかなか難しい。しかし、想像できないのならば、こういう場で見て、聴いて、感じればよい。育成の対象とされている若手も、こういう場に会って、当事者としての意識が更に強くなることが期待できる。このような発言の場が、今後たくさん生まれ(必要なら自分で立ち上げて)、若手の意見が多くの人目に触れ続けることが出来るよう、強く願う。



JOS News Letter

JOSニュースレター
第5巻 第1号 2015年6月1日発行

編集 JOSNL 編集委員会

委員長：津田敦 委員：小守信正、根田昌典、田中祐志

〒277-8564 千葉県柏市柏の葉5-1-5

東京大学大気海洋研究所

電話/FAX 04-7136-6172

メール tsuda@aori.u-tokyo.ac.jp

デザイン・印制 株式会社スマッシュ

〒162-0042 東京都新宿区早稲田町68

西川徹ビル1F

http://www.smash-web.jp

発行  日本海洋学会
The Oceanographic Society of Japan

日本海洋学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1 パレスサイドビル9F

(株)毎日学術フォーラム内

電話 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555

メール jos@mynavi.jp

※今号の表紙および記事には関係のない写真は、東京大学大気海洋研究所佐野雅美会員から提供いただきました。